

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

### 【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### 【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

### 【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】(アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 吉田さくらの里
(ユニット名)	東ホーム
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市
記入者名 (管理者)	浜田 学
記入日	平成 20年 3月 31日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
	「この家で共に暮らし 共にくつろぎ 地域とふれあいのある暮らし」という基本理念のもと、地域とのつながりを強くできるよう、地域へ貢献できる役割を探し、入居者様が住み慣れた地域で安心して生活できるよう支援しています。		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		毎日理念を確認し合い、ミーティングの折には、どのように具体的に実行していくかを話し合い、意識統一を図っています。
	理念の共有はできているが、理念の具体的な実践に向けた、職員の意識統一がまだ充分ではない現状です。		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
	家族会や運営推進会議など、折に触れ事業所としての基本理念を説明し、理解をいただけるよう伝えていきます。		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		地域住民の方々が気軽に立ち寄って、お茶を飲んだり、利用者様との交流を行っています。
	定期的に挨拶にまわったり、ホーム前の門を開放し、気軽に立ち寄ってもらえるよう環境作りをしています。		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		利用者様や事業所職員が、地域行事や奉仕作業へボランティア参加し、敬老会、運動会など参加しています。
	地域の文化祭など利用者様と共に参加したり、近くの小中学生が学習の一環で訪れるなど、積極的に地域との交流を図っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症介護の専門職として、地域高齢者の暮らしに役立つような関わりができないか、話し合っています。また、看護学校実習生の受け入れも積極的に行っています。		地域サロンや老人会に出向き、認知症専門職として地域高齢者の方々へ、認知症の理解を広める活動や認知症の予防活動を行っています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を実施し、外部評価による第三者の視点を受け止め、ミーティングで改善策を検討し、事業所としての質が高められるよう努めています。		自己評価項目にある視点を、全スタッフが理解し意識できるよう勉強会を行い、常に振り返りができる環境を作っています。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、実際のサービス状況や評価への取り組み状況を報告し、そこで出た意見で、実践可能な部分は即実践し、検討が必要な案については、ミーティング等で話し合い、再度会議で提案・議論できるようにしています。		今まで得ることが困難であった、多方向からの視点を活かし、サービス向上・職員の意識向上を図っています。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	責任者が市町村担当者へ出向き、制度への理解を深めるべく相談したり、市町村の方針について確認できるよう努めています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修へ参加し、勉強会を開き、職員全員が理解を深め、必要な人にはそれらを活用できるよう、知識向上を図っていきます。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の立場に立った視点を意識し、スタッフ自ら自分と置き換える習慣を持ち、虐待が起こらないよう意識統一を図っていきます。また研修会にも参加し、学習会を行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	時間を取って説明しています。利用料金、医療連携体制の説明、同意を得るようにしています。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	管理者・職員は、利用者様の意見や不満を表現する機会を妨げないよう語る機会を持ち、実践できる部分は取り入れるよう心がけています。また、ご家族やご友人の来訪時には、ホームスタッフが関わらない時間を設け、ゆっくりと本音で話しやすい環境を作れるよう配慮しています。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月、入居料、小遣いの報告に合わせて、健康状態など近況をご報告できるようお便りでお伝えしています。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	外部評価以外にも、年一回家族向けアンケートを実施し、そのアンケート結果についてのホームの解答並びに家族との情報交換に、第三者委員や地域住民を招き、運営推進会議を開きました。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月全体ミーティングで要望や意見を聞くように心がけ、各ホームで意見交換を行っています。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	4勤交代制により、時間に余裕のある勤務体制となっており、利用者様の状態によって柔軟に対応できるよう配置しています。必要な場合には出勤人数を調整し、入居者様へのサービスが公平に提供できるよう努めています。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	合同レクリエーションなどで顔合わせを行い、なじみの関係作りを行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他の事業所などへの研修や勉強会などには積極的に参加する機会を設けています。また、研修内容の重要度も考慮し、受講人数などはその都度調整するようにしています。全体ミーティング時には、研修会の報告、意見交換等を行い能力向上に努めています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に数回、地域の同業者の交流会があり、職員が情報交換やネットワーク作りができるよう、参加を促し支援しています。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	事業所内や他事業所との交流や親睦の機会をもうけ、気分転換、ストレス解消を行っています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員の業務や悩み、勤務状況を把握しており、各スタッフが向上心を維持しながら勤務に従事できるよう努めています。また、職員の資格取得にも配慮し、労働環境作りに努めています。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者様のペースに合わせて、ゆっくりと聞いて差し上げて、その会話に対してゆっくりとした口調で話すように心がけています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族よりゆっくりと聴き取りを行い、求めているものを理解し、どのようにして制度やサービスを活用できるか、双方向的な話し合いができるよう努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談について、ご本人様、ご家族を含め一緒に解決策を考えております。必要によっては、他のサービスと連携をとっています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にホームへ見学していただいたり、一人一人の状況をしっかり把握して、徐々に利用者様のペースに合わせて家族と話し合いながら、なじみの存在になれるよう工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として尊重しながらも、職員も学び、成長させて頂く環境作りに努めております。利用者様が自ら参加して頂けるような食事、掃除、レクリエーションなどに工夫しています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思い、利用者様の思いを受け止め、一緒に支え合う関係を作って行けるように支援しています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者様とご家族との連絡ノートを利用し、職員も家族の思いを感じより良い関係を支援しています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅訪問、墓参り、美容室などなじみの所へ職員が同行し支援しています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様の性格などを職員が把握しており、楽しく過ごせる場面を作っております。食事、お茶の時間などは、気の合う同志で楽しめるように工夫しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所へ移られた方へのお見舞いやご家族からの情報を聞いています。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを伝えることのできる方には、日々関わりの中で利用者様の希望、意向を聞き、その思いを支えるように努めております。困難な方へは、家族より情報を得るようにしています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅、知人宅の訪問を行い、把握に努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の生活のリズムを理解し、小さな動作から感じ取り本人の全体像を把握しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月、全ての利用者様について、ホームスタッフでの全員でのケアカンファレンスを行い集約された課題について、本人家族の意向を加え、随時ケアの仕方について検討しています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、モニタリングを行い、3ヶ月に一度のプラン見直し以外にも変化があった場合も常時見直しを行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいて、プランを意識した記録が取れるよう工夫し、ケアプラン作成に生かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人希望状況に応じて、病院受診、買物、自宅訪問など生活がスムーズにできるよう取り組み、ご家族に対しては、家族の都合に応じて柔軟に対応しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者様が安心して生活できるように、警察や消防・町内会長・民生委員・地域包括支援センター職員と意見交換を行い、ボランティアの受け入れ、小学生との交流を行っています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	毎月訪問美容サービスを利用いただいています。地域にある医療施設内の入浴設備(温泉)を利用させて頂くことになっています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの連携体制はできており、必要な場合には相談しながら、権利擁護についても常に点検しています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択はもちろん、ご本人ご家族の意向を第一に緊急な場合にも対処できるように医療機関との連携を図っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域にある医療施設の連携を図り、認知症に詳しい医師による勉強会を実施し、連携を取れる関係にあります。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	両ユニットに看護師を配置しており、日頃より医療面の相談ができる体制が整っています。また、看護師と提携医療機関との連携も密にとれる状態になっています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時のスタッフの見舞いやケアマネと医療機関との連携を図り、早期退院に向けて医療機関と話し合いを行っています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員が終末期の学習に参加しているが、当ユニットでの終末期の人の対象にした経験がありません。		重度化に伴い、当ホームで看取りができるように学習会をしていきます。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	研修会には参加していますが、当ホームでは今現在終末期対象の入居者様がありませんので、取り組みができていない現状です。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化に伴う認知症へのダメージに留意し、把握している情報を最大限に活用し連携をとりながらご本人への影響を最小限にできるよう努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>利用者様一人一人の誇りを尊重し、声かけなどの際、本人を傷つけてしまわないように、職員一人一人が意識して接していきます。また、他の家族や訪問者に対し、利用者様の個人情報を話さないように取り組んでいます。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者様の希望や関心のあることを実践できるように個々の話を聞き入れながら行うように心がけています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>買物や散歩など、入居者様の気持ちを尊重して、一人一人のペースに合わせて支援していけるよう努めています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>美容師に来て頂き、本人希望の髪形にいます。また外出などは本人用の化粧品を使いおしゃれを楽しんでいただいています。本人の希望によりなじみの美容室に行っています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>メニュー作りは利用者様の好み、食べたい物をお聞きして、一緒にメニュー作りし、準備して同じテーブルで食事ができるようにしています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好に応じて週一回の菓子作り等を行っています。食べたい物を一緒に買いに出かけたり、飲み物などを提供しています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>個々の排泄パターンを把握し、できるだけ薬に頼らず排泄できるよう習慣づけを行っています。排泄用品に頼らないケアに努めています。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>利用者様の希望を考慮して、ゆっくり気持ちが良かったと言って下さる事を大事にして支援しています。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>できるだけ日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めています。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>季節ごとの行事、味噌作り、切干大根、梅干し作りなど一人一人の経験や知識を教わりながら行い、日々の食事作り、後片付け、洗濯など日常生活では共に協働できるよう心がけています。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理が可能な方には財布を持っていただいています。外出時や買い物に出かけた時には、自由に使用していただいています。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>気候や天候、ご本人のご希望に応じて散歩やドライブ・屋外レクリエーションを支援し、季節感や爽快感を味わう機会がもてるよう努めています。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>自宅に帰りたい利用者様へはご家族と相談し、帰る機会を設けたり、なじみの場所へ外出する機会をつくるよう支援しています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様よりご希望がある場合には電話や手紙で連絡がとれるよう支援しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	なじみの方々が気軽に足を運べるよう雰囲気作りに励んでいます。面会時にはできる限りプライベートスペースを確保できるよう配慮し、ゆったりと過ごしていただけるよう心がけています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険指定基準にある禁止対象となる行為は理解しており、ミーティングなどで繰り返し教育を行っています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけておらず、開放的で自由に出入りができるようにしております。利用者様が外出しそうな様子を察知したら止めるのではなく、声かけや一緒に付いて行くなど安全面に考慮しています。		玄関から出ることにつづかないことによって事故の原因とならないよう職員の意識確認を呼びかけています。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者様と一緒に記録を行いながら全員の状況を把握するように努めています。夜間は定期的に入居者様の安全確認をしています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬剤や包丁など誤って使用する可能性があり、利用者様の目の届かない場所へ保管しています。内服薬については鍵の付いたロッカーに保管しています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットについて話し合いをもち、お互いの情報交換のためにもヒヤリハットシートの記入を促しており、事故となってしまうケースも含め毎月ミーティングで報告し、共有認識・事故防止を図っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て救命講習を行っており、応急手当や蘇生法について勉強し職員が対応できるようにしています。		医師より急変事故発生時の学習会を家族も含めて行った。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議にて、地域住民や消防署・駐在所とも話し合いを行っています。さらに、利用者様、地域ボランティアなどと避難訓練を実施しています。		今後も地域の方々と相談しながら共に助け合える方法を見つけていきたいと考えています。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者様個別に起こりうるリスクについて説明し、支援の方針について理解していただけるよう話し合っています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い状態確認をし、異常や変化がみられた場合には主任(看護師)と連絡をとり、必要に応じて病院へ受診できるようにしています。利用者様一人一人の疾患や主治医については、早急に確認できるよう掲示しています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の薬についての説明書を元に効能や効果についてすぐ確認できるようシートを作成し、説明書のコピーをファイルして副作用や注意事項が確認できるようにしています。また、ミーティングで情報の確保に努めています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄回数のチェックを行い、便秘状態の続く方には運動や食事の工夫、毎日の体操にも取り入れ、自然な排便ができるよう取り組んでいます。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアに声かけし、ケアのできない方には職員がサポートしております。訪問歯科による口腔チェックを行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の量は毎日確認を行い、個別の嗜好など献立に取り入れながらバランスを考えています。摂取することが困難になったときには、食事形態を変え支援しています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染防止委員会があり、インフルエンザの予防接種やノロウイルス対策などについてミーティングで対応策を検討し、実践できるようにしています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や調理器具・布巾などは定期的に消毒を行い、食材については冷蔵庫や保管庫の整理日を決めて新鮮な食材を使って調理できる環境を整えています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前やベランダには鉢植えやプランターを置き雰囲気作りをしています。昼間は門戸を開け、気軽に出入りができるようにしています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビをつけっぱなしにするのではなくラジオや音楽を流すことにより聴覚からの刺激を受けられる時間を設けたり、季節の花をテーブルに飾ったり四季に合わせたお菓子作りをしたりと季節感を味わえる機会を設けられるよう支援しています。また、職員と共に新聞を読むなどのレクリエーションも取り入れています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファを置き、仲の良い利用者様同士で過ごせる時間が取れるようにしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ぬいぐるみや家族の写真、鏡台など使い慣れた物を置いて工夫し、安心して生活できるよう環境を整えています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共有スペース・利用者様のお部屋とも室温や気候を考慮しながら適切な時間に換気を行えるようにしています。1日に2回は気温・湿度のチェックを行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の身体状態を考慮し、必要になった場合には改修を検討し、今ある設備の中で安全に生活ができるよう取り組みをしています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症により混乱を招く可能性がある利用者様に対して、出来る限り混乱を防ぐことができるよう人の出入りや物の配置など環境作りに努め、多様な角度から考えができるようミーティングなどで勉強会を行っています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭にはベンチ・椅子が配置してあり、中庭で日光浴・外気浴を楽しめる環境を作っています。ホーム内には畑を作り、手入れや収穫など利用者様が気軽に楽しむことができますようにしています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

玄関、門は常時開放し、地域の方の訪問を受け入れ、さらにお米、野菜など地域の方から購入するなど、地域に開かれたホーム作りに取り組んでいる。両棟を囲んだ広い中庭があり、天気の良い日には両棟にて合同レクリエーションを楽しみ、スタッフ、入居者様共になじみの関係づくりに努め、精神的な気分転換を図っています。

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を实践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 吉田さくらの里
(ユニット名)	西ホーム
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市
記入者名 (管理者)	浜田 学
記入日	平成 20年 3月 31日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
	「この家で共に暮らし 共にくつろぎ 地域とふれあいのある暮らし」という基本理念のもと、地域とのつながりを強くできるよう、地域へ貢献できる役割を探し、利用者様が住み慣れた地域で安心して生活できるよう支援しています。		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		毎日理念を確認し合い、ミーティングの折には、どのように具体的に実行していくかを話し合い、意識統一を図っています。
	理念の共有はできているが、理念の具体的な実践に向けた、職員の意識統一が充分ではない現状です。		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
	家族会や運営推進会議など、折に触れ事業所としての基本理念を説明し、ご理解をいただけるよう伝えていきます。		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		地域住民の方々が気軽に立ち寄って、お茶を飲んだり、利用者様との交流を行っています。
	定期的に挨拶にまわったり、ホーム前の門を開放し、気軽に立ち寄ってもらえるよう環境作りをしています。		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		利用者様や事業所職員が、地域行事や奉仕作業へボランティア参加し、敬老会、運動会など参加しています。
	地域の文化祭に利用者様と共に参加したり、近くの小中学生が学習の一環で訪れるなど、積極的に地域との交流を図っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症介護の専門職として、地域高齢者の暮らしに役立つような関わりができないか、話し合っています。また、看護学校実習生の受け入れも積極的に行っています。		地域サロンや老人会に出向き、認知証専門職として地域高齢者の方々へ、認知症の理解を広める活動や認知症の予防活動を行っています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を実施し、外部評価による第三者の視点を受け止め、ミーティングで改善策を検討し、事業所としての質が高められるよう努めています。		自己評価項目にある視点を、全スタッフが理解し意識できるよう勉強会を行い、常に振り返りができる環境を作っています。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、実際のサービス状況や評価への取り組み状況を報告し、そこで出た意見で、実践可能な部分は即実践し、検討が必要な案については、ミーティング等で話し合い、再度会議で提案・議論できるようにしています。		今まで得ることが困難であった、多方向からの視点を活かし、サービス向上・職員の意識向上を図っています。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	責任者が市町村担当者へ出向き、制度への理解を深めるべく相談したり、市町村の方針について確認できるよう努めています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修へ参加し、勉強会を開き、職員全員が理解を深め、必要な人にはそれらを活用できるよう、知識向上を図っていきます。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法案について学ぶ機会を作り、虐待となりうる行為を確認し、“気づかない虐待”も防ぐことができるよう努めています。		利用者様の立場に立った視点を意識し、スタッフ自ら自分と置き換える習慣を持ち、虐待が起こらないよう意識統一を図っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ場合には、当ホームの運営方針や料金・サービスに詳しく説明を行い、同意を得るようにしています。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・職員は、利用者様の意見や不満を表現する機会を妨げないよう語る機会を持ち、実践できる部分は取り入れるよう心がけています。また、ご家族やご友人の来訪時には、ホームスタッフが関わらない時間を設け、ゆっくりと本音で話しやすい環境を作れるよう配慮しています。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者様とご一緒にご家族へのお便りを作成しています。それとは別に、金銭報告や近況報告も同時に行っています。また、ご家族の来訪時に、ノートを使って意見や情報の交換を行っています。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には家族会や訪問時に声をかけ、本音で相談することができる関係作りに努めています。不満や苦情については、ミーティングで解決策を話し合い、いただいたご意見については、今後活かせるよう努めています。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体のミーティングで各スタッフの意見や提案を聞く機会を設け、その意見や提案が反映できるよう責任者会議で検討するようにしています。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	4勤交代制により、時間に余裕のある勤務体制となっており、利用者様の状態によって柔軟に対応できるよう配置しています。必要な場合には出勤人数を調整し、利用者様へのサービスが公平に提供できるよう努めています。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	合同レクリエーションなどで顔合わせを行い、なじみの関係作りを行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外の研修へ参加をできるように支援しています。また、教育係を設置し情報収集・研修参加への振り分けを行い、事業所内における研修や勉強会の充実を図っています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に数回、地域の同業者の交流会があり、職員が情報交換やネットワーク作りができるよう、参加を促し支援しています。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	事業所内や他事業所との交流・親睦の機会を設け、気分転換・ストレス解消できるように支援しています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は個別職員の業務や悩み・勤務状況を把握しており、各スタッフが向上心を維持しながら勤務に従事できるよう労働環境作りに努めています。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人の話をよく聴くことに重点をおき、理解者となれるよう心がけています。その上で、現在の生活状況や不安について語るきっかけを作り、全体的にイメージできるように努めています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が求めているものをゆっくりと聴き取りを行い、困っている事や悩んでいる事に対してどのような制度やサービスを活用できるか、双方向的な話し合いができるよう努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所のサービス利用に限らず、ご本人とご家族にとって最善の解決策を模索し、場合によっては、地域包括支援センターや他事業所のサービスにつなげるなどの対応をしています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人に顔を覚えていただくところから始め、ご家族も交えて職員がご本人にとって馴染みの存在になれるよう工夫し、理解を得ながら徐々に、受け入れていただける環境を作れるよう支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である事を職員が共有しており、お互いが協働しながら、生活できるような場面作りや声かけをしています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思い、利用者様の思いを受け止め、一緒に支え合う関係を作って行けるように支援しています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月、ご本人からのお便りを発行しています。また、年間行事などにご家族をお誘いし、利用者様との関係の継続に努めています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活を考慮し、ご家族の協力のもと、外泊、墓参りの機会を作ったり、なじみの関係の方々と、手紙や電話にて連絡がとれるよう支援しています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	好き嫌いの関係を消極的に考えず、利用者様同士がお互いの関係を認め合い同居者として関われるよう、また場合によっては職員が仲介役になり、より良い雰囲気が保たれるよう励んでいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所へ移られた方へのお見舞いやご家族からの情報を聞いています。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、その場の発言や態度だけでなく、性格や関わる職員による影響を考え、利用者様が本音で望むものを見つけられるよう努めています。ご家族からの情報も参考にしています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴や暮らし方・生活環境をご家族や関係のある方々から教えていただき、現在・これまでの入居生活と照らし合わせながら、現在の生活の中で活かせるよう努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者様それぞれの1日1日の心身状態について職員同士情報交換を行い、それぞれの生活の流れの中で、有する力を最大限発揮できるよう支援しています。また、どの部分に援助が必要か見極められるよう職員の意識向上を図っています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	常にご本人やご家族の思い、意見を聴き取り、毎月の全体ミーティングでの情報交換、必要時には随時カンファレンスを行い、計画作成に活かしています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しています。毎月のモニタリング、必要に応じてのカンファレンスを行い、変化があった場合、ご本人やご家族及び関係者と相談し、見直し、計画を作っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、食事・水分摂取量、排泄状況、身体・精神状態や本人の言葉エピソードを記録しています。また介護計画に沿った記録ができるように努めています。勤務交替時に情報確認も行っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族の状況に応じて、病院受診、往診対応、買物など必要な支援は柔軟に対応し、満足いただけるよう努めています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者様が安心して地域での暮らしを続けられるよう警察、消防、町内会、民生委員、地域包括支援センターと意見交換する機会を持ち、協力関係を築けるよう努めています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問美容サービスや歯科訪問診療を実施しています。また、地域にある医療施設内の入浴設備(温泉)を利用させて頂くことになっています。		本人の意向や必要性に応じて利用できる他のサービスがないものか他事業所との連携を図っていきます。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に出席していただき、関係が強化されました。地域への協力や情報交換、協力関係を築いています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望するかかりつけ医となっているが、往診対応の協医への主治医変更を希望され、24時間対応で医療が受けられるようにしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域にある医療施設の連携を図り、認知症に詳しい医師による勉強会を実施し、連携を取れる関係にあります。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ユニットに看護師を配置しており、日頃より医療面の相談ができる体制が整っています。また、看護師と提携医療機関との連携も密にとれる状態になっています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時のスタッフの見舞いやケアマネと医療機関との連携を図り、早期退院に向けて医療機関と話し合いを行っています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員が終末期の学習に参加していますが、当ホームでは、今現在終末期の人の対象にした経験がありません。		重度化に伴い、当ホームで看取りができるように学習会をしていきます。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームとしてできること・できないことをご家族に理解していただけるよう説明をするとともに、最大限の支援ができるよう急変時の連携の取り方などについて医師との連携も含めて家族会で話し合う機会を設けています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化に伴う認知症へのダメージに留意し、アセスメント、ケアプランや支援状況などの情報交換を行い、ご本人への負担が最小限にできるよう努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>利用者様一人一人の誇りを尊重し、声かけなどの際、本人を傷つけてしまわないように、職員一人一人が意識して接していきます。また、他の家族や訪問者に対し、利用者様の個人情報を話さないように取り組んでいます。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>自己決定を大切にし、ご本人の理解力に合わせて説明し、1つ1つの効果やメリットを挙げ、物や事のイメージで決めるのではなく、複数の選択肢の中から、ご本人が選べるようゆっくりと時間をとって決めることができるよう留意しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者様の気持ちを尊重して、一人一人のペースに合わせて支援していけるよう努めています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>毎月美容師に来て頂いています。また、本人希望によりなじみの美容室に行っています。ご本人で服を選ぶことができる方は、ご本人が選べる環境を作り、着脱衣における必要な支援のみ行っています。その他の身だしなみについては、さりげなく声をかけ、整えられるよう支援しています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者様と共にメニュー作りを行い、野菜の下ごしらえや味見、後片付けなどできる限り利用者様と一緒に作業しています。食事を摂る時間も利用者様と職員でテーブルを囲み、触れ合いながら楽しめるよう雰囲気作りを行っています。また、ホーム内で一緒に作った野菜を食する機会も設けています。</p>	<p>毎週食材の買物日を設定し、利用者様と外出し、食事メニューを選んでいただける機会を設けています。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲み物やおやつは利用者様のご希望をうかがいながら、手作りするなどして楽しめるよう支援しています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者様が安心して生活できるよう、定時のトイレへのお誘いや使用するオムツの種類について定期的に話し合いを設け、より良い援助方法を見つけられるよう努めています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望によりいつでも入浴できる体制はとっていますが、入浴時間帯は決めて支援しています。一人一人が安全、安楽に入浴が楽しめるように順番や援助方法は、ミーティングで話し合い、支援しています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	できるだけ昼間の活動を促し、昼夜(睡眠)のリズムを崩さないよう気を配っています。リズムが変化している利用者様へは、無理に起こしたり薬剤を使用することをさけるため、ご本人の生活リズムが把握できるようグラフを作り、そのリズムの中で活動する機会をもてるよう努めています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや後片付け・洗濯など生活における作業はできるだけ協働できるよう心がけています。野菜作りや味噌・梅干し作りなど一人一人の経験や知識を分けていただきながら、利用者様の力を最大限活かしながら生活できるよう支援しています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には財布を持っていただいています。外出時や買物に出かけた時には、自由に使用していただいています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や天候、ご本人のご希望に応じて散歩やドライブ・屋外レクリエーションを支援し、季節感や爽快感を味わう機会がもてるよう努めています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	自宅に帰りたい利用者様へはご家族と相談し、帰る機会を設けたり、墓参りなど外出する機会を設けたりできるよう支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、利用者様と手紙を作成し、近況報告も一緒に送付しています。書くことのできない利用者様からは、ご本人のお話をうかがいながら職員でサポートしています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	なじみの方々が気軽に足を運べるよう雰囲気作りに励んでいます。面会時にはできる限りプライベートスペースを確保できるよう配慮し、ゆったりと過ごしていただけるよう心がけています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケアは、拘束にあたらないよう個々でケアに努めています。疑問に思うことは毎月会議の中で学習会を開き、解決に努めています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者様が外に行かれる様子が伺えたら、さりげなく声をかけたり、一緒についていくなど安全面に配慮し、自由な暮らしを支えています。		玄関から出ることにつづかないことによって事故の原因とならないよう職員の意識確認を呼び掛けています。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	記録などをとる時は利用者様と会話を持ちながら、全員の状況を把握するよう努めています。夜間は、巡視を徹底し、利用者様の動きにすぐ対応できるよう居場所を工夫しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や洗剤など日常家庭内に想定されるものについてはできる限り適当な場所へ配置し、管理できる方へは、裁縫道具なども個別保管を行っています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットについて話し合いをもち、お互いの情報交換のためにもヒヤリハットシートの記入を促しており、事故となってしまうケースも含め毎月ミーティングで報告し、共有認識・事故防止を図っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て救命講習を行っており、応急手当や蘇生法について勉強し、救命講習修了証もっています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議にて、地域住民や消防署・駐在所とも話し合いを行っています。さらに、利用者様、地域ボランティアなどと避難訓練を実施しています。		今後も地域の方々と相談しながら共に助け合える方法を見つけていきたいと考えています。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者様個別に起こりうるリスクについて説明し、支援の方針について理解していただけるよう話し合っています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い状態確認をし、異常や変化がみられた場合には主任(看護師)と連絡をとり病院へ受診できるようにしています。利用者様一人一人の疾患や主治医については早急に確認できるよう掲示してあります。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の薬についての説明書を元に効能や効果についてすぐ確認できるようシートを作成し、説明書のコピーをファイルして副作用や注意事項が確認できるようにしています。また、ミーティングで情報の確保に努めています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、排便チェック表で個人状況をチェックしていますが、正確な状況把握は難しい現状があります。水分量や運動など取り組んでおり、医師と連携し、薬剤の使用を極力少なくするよう支援しています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご本人がされない利用者様は毎食後に歯みがきにお誘いし、できる部分はご本人の作業を確認しながら足りない部分を援助しています。訪問歯科による口腔チェックを行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は毎日確認を行い、摂取状態によっては医師との連携を図りながら確保できるよう支援しています。嚥下状態や咀嚼能力に応じて摂りやすい食事を提供できるよう工夫しています。		摂取量が少ない方には、好みを再確認し補水に努めています。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染防止委員会があり、インフルエンザの予防接種やノロウイルス対策などについてミーティングで対応策を検討し、実践できるようにしています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や調理器具・布巾などは定期的に消毒を行い、食材については冷蔵庫や保管庫の整理日を決めて新鮮な食材を使って調理できる環境を整えています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前やベランダには鉢植えやプランターを置き雰囲気作りをしています。昼間は門戸を開き気軽に出入りができるようにしています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾付けは、利用者様が手作りされた物(ちぎり絵)など、季節に沿った飾付けを行っています。TVの音や換気など利用者様の不快にならないような環境作りに努めています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファを配置したり、窓際に折りたたみ式のテーブルを準備し必要に応じて利用できるようにしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・タンスはホームで準備した物をご使用になっている方が多いですが、それらの家具を活用しご本人・ご家族のご協力をいただきながら、写真や衣装ケースなどを配置しご本人の過ごしやすい場所となるようお部屋作りを行っています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共有スペース・入居者様のお部屋とも室温や気候を考慮しながら適切な時間に換気を行えるようにしています。1日に2回は気温・湿度のチェックを行っています。乾燥時には、洗濯物を干すなど工夫し乾燥予防に努めています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、共用スペースには、手すりを設置しており、自力歩行を促している。残存機能をなるべく生かしていただけるようにしています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者様が不安や混乱をまねく可能性があるものは取り除き環境を整えています。また、多様な角度から考えができるようにミーティングなどで勉強会を行っています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭にはベンチ・椅子が配置しており、中庭で日光浴・外気浴を楽しめる環境を作っています。建物の裏には畑を作り、手入れや収穫など入居者様が気軽に楽しむことができますようにしています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

玄関、門は常時開放し、地域の方の訪問を受け入れ、さらにお米、野菜など地域の方から購入するなど、地域に開かれたホーム作りに取り組んでいる。両棟を囲んだ広い中庭があり、天気の良い日には両棟にて合同レクリエーションを楽しみ、スタッフ、入居者様共になじみの関係づくりに努め、精神的な気分転換を図っています。